

総務文教常任委員会

平成28年7月5日から7日までの3日間、鹿児島県大島郡宇検村で学校教育、住宅、人口等についての調査研修を目的に所管事務調査を行って参りました。

学校教育では単独小中学校がそれぞれ1校と併設小中学校が3校あり、一番小規模な併設校では小学生が7名、中学生は2名とのことでした。複式学級ではあるが学力低下も見られず、学校は地域で支えるという土地柄で統合問題は一切起きていないとのことでした。

町営住宅は2LDKで2階建てのアパート形式、家賃は2万5千円の住宅でした。担い手支援住宅はなく、空き家も多数あるが貸家にできる空き家は少なく、町ではあっせんのみでした。

人口増加対策として町では働く場所の確保のために企業の誘致を積極的に推進しているのがまざまざと見えました。マグロの養殖、真珠貝の養殖、エビの養殖、それに酒造会社の誘致等がされてきました。

観光資源、養殖等のために土砂流出を極力なくすために、災害復旧作業道施工には万全を期しているとのことでした。

以上、総務文教委員会の報告といたします。

委員長 武藏重幸

産業建設常任委員会

宇検村は周囲に急峻な山々が迫り我が町と同様90%を山が占める人口1720名の村で、人口減少と少子高齢化の進行に歯止めをかけることが喫緊の課題であり、第5次宇検村総合振興計画の中でも将来に向けた成長戦略プランに基づき着実な村づくりを進め、創生総合戦略では平成35年の将来目標人口を1800人に設定し、計画の枠組みを「産業・生活環境・人と自然の調和」など、2つの計画の相乗効果を狙い政策の効果を高めようとしている。

宇検村の総土地面積は1万307haで耕地面積は145haと平地は少なく主な農作物の生産実績としてタンカン、さとうきび、ボンカン、マンゴー、パッションフルーツ、かぼちゃと続き、漁業の現状としてクロマグロやクルマエビ、真珠などの養殖業が一大産業として確立し、村内外や都市部からも若者が集まり、黒糖焼酎の生産拡大や企業立地による雇用の拡大も農業後継者減の要因になっているとの説明であった。林業は以前はチップの生産が盛んだったが、現在は1社のみが操業をしている。離島という経済活動上の不利な条件は否めない事実としても、抱いていたイメージとはだいぶ違い、サトウキビや果物、また畜産、紬、黒糖焼酎、養殖の他観光、スポーツ合宿の誘致、山村留学などの取り組みも着実に進められ、企業立地による雇用の拡大もあり、緩やかではあっても着実に前に進んでいることが今回の所管事務調査で感じられ、今後の交流の行方を注視してまいりたいと強く感じ報告いたします。

委員長 梅津政志



視察先：鹿児島県宇検村

平成28年7月5日から7日にかけて、鹿児島県宇検村において行政視察研修を実施いたしました。宇検村は鹿児島県奄美大島の南西部に位置し、周囲には海と急峻な山々が迫り、七ヶ宿町と同様90%を山が占める人口1720名の村です。



▲シンボルマーク



▲学校教育現場視察（田検小学校）



▲宇検村議会議員との意見交換



▲産業関連の現場視察（右：養殖マグロの水あげ 左：エビの養殖場）



七ヶ浜町議会の皆さんが来庁されました

10月13日、『議会報告会の開催方法について』『議会基本条例について』『議会活性化の取り組みについて』などをテーマとした視察研修で、七ヶ浜町議会の皆さんが本町を訪れました。本議会からは高橋議長、吉野副議長、菅原議会報告会実行委員長が出席し、両町の実情などを交えた意見交換を行いました。